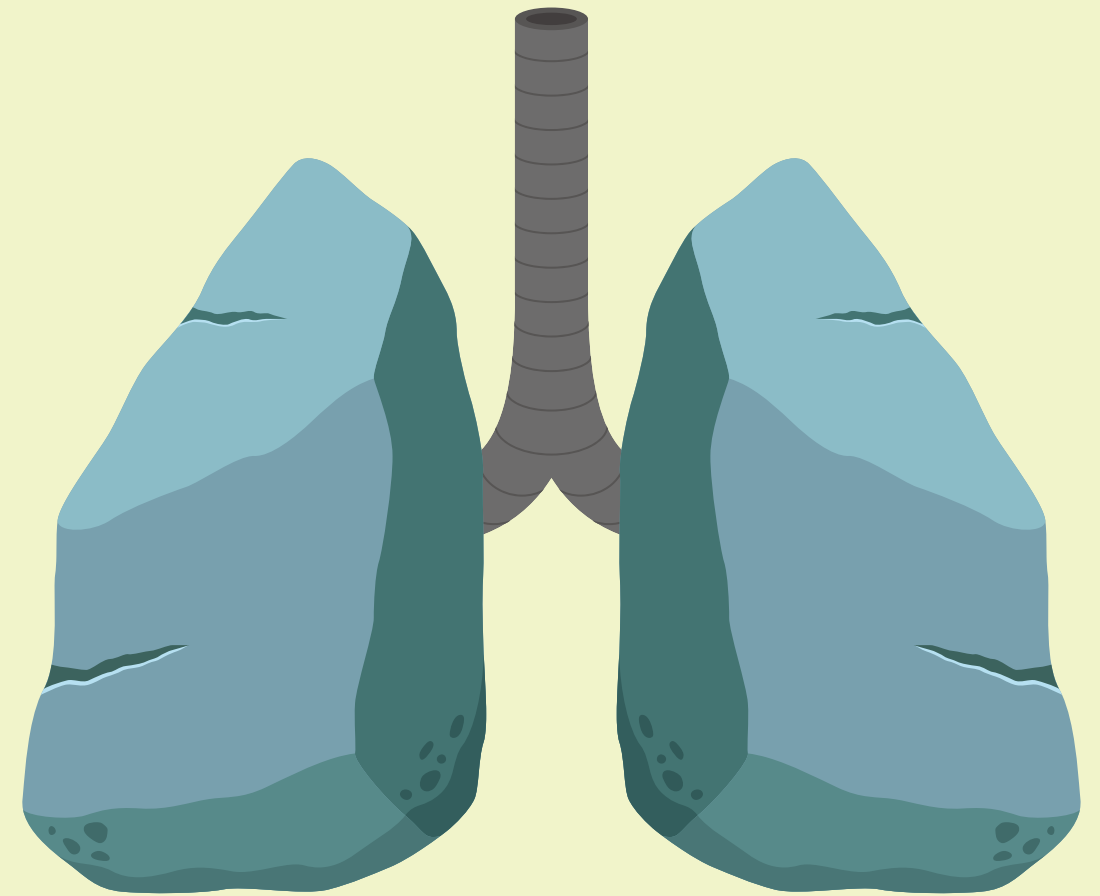


明日へつながる、より確かな医療連携をめざして。



TOPICS

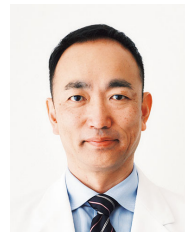
間質性肺炎

新任部長のご紹介 / 呼吸器内科×臨床研究センター



新任部長のご紹介

2025年4月より、新たに消化器内科部長に庄野 孝、外科部長に今井 克憲が就任いたしました。
皆さまの変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



消化器内科部長

庄野 孝

しょうの たかし



—
専門分野

消化器内科一般、早期がんの内視鏡治療、悪性
消化管狭窄に対する部消化管ステント治療



外科部長

今井 克憲

いまい かつのり



—
専門分野

肝・胆・膵外科、内視鏡外科

呼吸器内科 × 臨床研究センター

当科では、間質性肺炎・肺がんの
診療・研究に積極的に取り組んでいます。

01

一般健診者に発見された肺間質異常(ILA) の大規模コホート多施設共同研究 (熊本大学病院、熊本赤十字病院との共同研究)

間質性肺炎

間質性肺炎の初期病変を含むと言われているILA症例
を前向き集積し、進行例には早期診断・治療を行うと
いう研究です。

02

特発性肺線維症の急性増悪へのステロイド の適切な使用法のランダム化比較試験

間質性肺炎

ステロイドの早期漸減が良好な予後に関連する(Anan
K, et al. Respir Res. 2022;23(1):291.)という当科主導
の多施設観察研究の結果から、特発性肺線維症急性
増悪に対するステロイド漸減方法に関する当科主導の
ランダム化比較試験を計画中です。

03

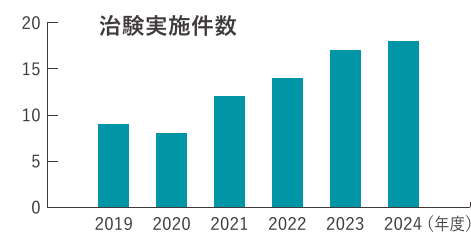
肺がん領域の臨床研究

肺がん

2025年3月現在、当科の肺がん領域では、遺伝子変異
陰性初回治療4件の他、EGFR exon20挿入変異、KRAS
G12C、進展型小細胞肺がん、二次治療以降の抗体薬物
複合体、合わせて8件の治験に参加しています。これらの
治験は、標準治療と新薬の効果を比較検討する内容
です。従って、期待される新薬をいち早く届けられる機会
になりますし、新薬の投与に至らずとも、標準治療を
患者さんの経済的負担なく提供できるという利点が
あります。また、EGFR、ALK、MET 14 skippingといった
遺伝子変異に応じた分子標的薬の他、肺大細胞神経
内分泌がん、間質性肺炎合併肺がんといったアンメット
メディカルニーズに対する多施設共同の特定臨床研究
や観察研究にも参加しています。治験によるエビデンス
が構築できない患者さんにも、適切な倫理審査を経た
臨床研究の枠組みを活用することで、有効性を検討し
つつ、安全性を担保して治療を提供します。いずれにし
ても研究参加には適格性の確認が必要ですが、是非
こうした枠組みを活用して治療に臨めるようにご案内
いただけると幸いです。



治験を積極的に実施しています



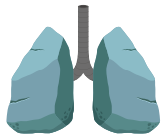
現在、呼吸器内科では15件の治験を実施しています。その内訳は、特発性
肺線維症や進行性肺線維症、肺がんにおける抗がん剤の初回治療や二次
治療以降、ARDS、COPDなどと多岐にわたっています。当科で実施してい
る治験は、患者さんにとって治療や再発予防の選択肢の一つと成り得る可
能性が比較的高く、患者さんへ積極的にご提案しています。2021年度頃を
皮切りに、実施件数は年々増加傾向にありますので、患者さんにご提案で
きる機会がさらに増えるのではないかと期待しています。これからも、現在、
そして未来の医療に貢献することができるよう取り組んでまいります。



呼吸器内科 坂田医師による
肺がんセミナー

分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、抗体薬物
複合体などについて語っています。是非ご覧ください！





TOPICS

間質性肺炎

Interstitial pneumonia

間質性肺炎について

間質性肺炎は2023年に2万3千人以上の死者を出し、呼吸器疾患では肺炎、肺がんに次ぐ第3位の死因で、特に60代以上の男性に多いことが特徴です。過去3年間で死者数は約15%増加しており、2023年12月には歌手の八代亜紀さんが膠原病による間質性肺炎で亡くなったことも記憶に新しいかと思ます。

日本人の死因 / 呼吸器疾患(厚生労働省人口動態統計 2023)

順位	分類	総数
1	肺炎※	135,935
2	肺癌	75,762
3	間質性肺疾患	23,874
4	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	16,940
5	その他の呼吸器系疾患	15,826
6	インフルエンザ	1,382
7	喘息	1,089
8	急性気管支炎	228

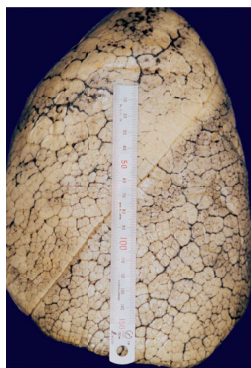
※誤嚥性肺炎を含む

呼吸器疾患の
死因で
3位に上昇COPDの
死亡者数を
上回る

間質性肺炎とはどのような疾患か

● 肺の変化

間質性肺炎とは、肺の中の肺胞壁「間質」が炎症を起こし硬く縮むことで、次第に呼吸が困難になる病気です。この状態は「線維化」と呼ばれ、一度硬くなった肺を元に戻す方法は現時点ではありません。



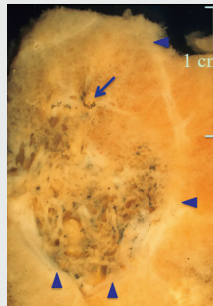
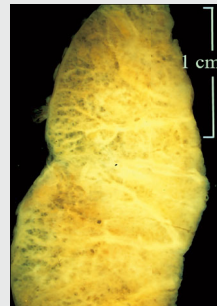
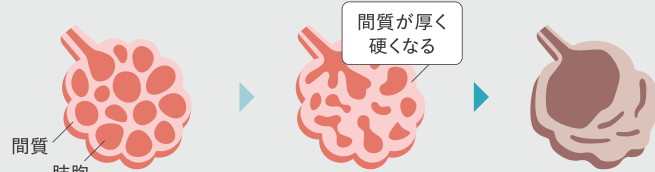
正常伸展固定肺



特発性肺線維症

生検標本からみた間質性肺炎の構造変化(実体顕微鏡像)

正常肺

間質性肺炎
(炎症優位)間質性肺炎
(線維化)

● 症状

乾いた咳や階段を上る際の息切れから始まり、悪化すると日常生活の軽い動作でも息苦しくなる場合があります。

具体的な症状

- 痰を伴わない乾いた咳(3週間以上持続)
- 労作時の呼吸困難(坂道や階段を上る際の息切れ)

● 原因

膠原病、水回りのカビや羽毛布団によるアレルギー、喫煙歴が挙げられるほか、原因不明の「特発性肺線維症」も多く、その5年生存率は約30%とされています。

治療について

10年で進化した抗線維化薬

現在、間質性肺炎の中で進行する線維化をきたす場合は、**病気の進行を遅らせる薬(抗線維化薬)**による治療が中心となっています。早期発見と治療が鍵であり、健康診断の受診や、かかりつけ医が間質性肺炎の可能性を考慮することが重要です。また、定期的な診察と薬の服用によって症状の進行を抑えることが可能です。

特に、患者さんの自覚症状もなく健診で発見された「肺間質異常」は、間質性肺炎・肺線維症の初期病変を含んでおり、専門医に紹介いただくと早期発見・治療につながります。

早期発見・治療のため

お早めに
ご紹介ください

熊本大学病院、熊本赤十字病院と共同で 肺間質異常の臨床研究を行っています

当院では、2022年6月から健診発見例を対象として、熊本大学病院、熊本赤十字病院と共同で、間質性肺炎・肺線維症の未発症段階と考えられている肺間質異常(ILA)の臨床研究(熊本ILA研究)を開始しています。3施設間で症例毎に診断検討を行い、未発症段階からの進行の有無を評価し、進行例には早期治療導入を行っています。

PICK UP



早期の医学所見

― 聴診時の捻髪音に注意

聴診時、背部の下側にパチパチという捻髪音がよく聞かれます。特に、喫煙歴や糖尿病、冠動脈疾患、逆流性食道炎の患者さんには注意が必要です。症状としては、乾性咳嗽(3週間以上持続)や労作時呼吸困難で息切れを感じるなどありますが、中には無症状の場合もありますので、捻髪音が聴取され、併存症が当てはまれば、早期に専門医へのご紹介をおすすめします。



欧米と比較して、日本では間質性肺炎の発症から診断までの遅れが指摘されています。初期症状である咳や息切れを喘息やCOPDと診断され、吸入治療等で様子を見られていることが要因としてあります。間質性肺炎の可能性を念頭に置いて、喫煙歴、併存症、聴診所見を参考にしていただくことが、早期診断に繋がります。早期診断・治療へのご協力をお願いします。

一門 和哉

呼吸器内科部長 兼
臨床研究センター長

専門分野

呼吸器一般、特に間質性肺疾患、急性呼吸不全(急性呼吸促進症候群(ARDS)など)

専門医・認定医

日本呼吸器学会(代議員・指導医) / 日本内科学会(総合内科専門医・指導医・評議員) / 日本がん治療認定医機構(がん治療認定医) / 日本サルコイドーシス学会(理事・評議員)